



ここは港区の情報ポータルサイト。最新の耳より情報がいっぱいです！

検索するキーワードを入力

検索

Kissポートからのお知らせ

今月のおススメ！

イベント情報・チケット情報

サークル情報

施設案内

港区探訪

ふれあいコラム

連載コラム

地域人

Kissポートギャラリー

T 文字サイズ

大きい

ふつう

小さい

[HOME](#) > ふれあいコラム: 文楽人形遣い 吉田 玉女さん

ふれあいコラム

今、話題の人物をクローズアップ！

[バックナンバー](#)

2012年12月号 師匠が伝える文楽の魅力と伝統をしっかり継承していきたい

文楽人形遣い よしだ たまめ
吉田 玉女さん



■プロフィール

1953年、大阪府生まれ。
1968年14歳で吉田玉男師(人間国宝)に入門、1969年大阪朝日座で初舞台を踏む。入門より師の薫陶を受け、現在は立役(男)人形遣いの第一人者として活躍中。
国立劇場文楽賞文楽優秀賞、2012年第32回伝統文化ポークラ賞優秀賞ほか、受賞多数。

2012年2月には赤坂区民センター『人形浄瑠璃 文楽 伝統を受け継ぐ ～曾根崎心中 其の壱』で、人形遣いの桐竹勘十郎さんとともに文楽の魅力を披露してくださいました。来年2月の“赤坂文楽 其の参”にも出演を予定されています。
今は亡き人間国宝の吉田玉男師匠のことや文楽の魅力を伺いました。

——文楽の世界に入られたきっかけは？

中学2年生の時、近所に吉田玉昇さんという人形遣いの方がいて、誘われてお手伝いに行くようになり、この世界に入りました。同い年の桐竹勘十郎さんとは、当時からのおつきあいで、良き仲間、良きライバルですね。彼はお父さん(二代目桐竹勘十郎)の楽屋に遊びに行っていたそうですが、うちはサラリーマンで、文楽のことは知りませんでした。学生服の上から黒衣を着せられましてね。玉男師匠の元で学び、学校を卒業すると玉女という名前をいただきました。文楽は世襲制ではないので、近所の子供や知り合いの関係で入門するといったことがあるんですよ。

——玉男師匠に対する思いは？

人形遣いの修行は、一般的には足遣いが10年～15年、それから左遣いになって20年～と長く、私も玉男師匠の側で左を20年以上勉強させていただきました。
いま、首(かしら)と右手を操る「主遣い(おもづかい)」になりましたが、師匠を身近で見ていたからこそできるのだとつくづく思います。人形の芝居で内面の気持ちを表現するのは難しいものですが、師匠は大役を何十年も続けてこられた。
私も主役をやらせていただくようになり、11月の「仮名手本忠臣蔵」では大星由良助をやりましたが、あらためて師匠の素晴らしさを実感します。
今年はちょうど師匠の七回忌ですが、今もふと「どこかで師匠が見てるのと同じかな」と感じますね。

——これから挑戦されたいことは？

玉男師匠が得意としていらした忠兵衛、徳兵衛…。世話物の立役の研鑽の機会をいただけたら嬉しいですね。

——文楽を鑑賞する時のポイントは？

文楽は、太夫、三味線、人形遣いの三つが揃って成り立つ舞台です。入門の本など読んでいただいて、それから、数多く見ることでしょう。

はじめは黒衣が目に入るかもしれませんが、何度か見ていると人形だけが見えてくると思います。入門してきた若い子たちにも、舞台をたくさん見なさいと言っています。

“赤坂文楽”は私や勘十郎さんの師匠の映像を見ながら、トークや人形を遣うので、面白い試みだと思います。

文楽の魅力は、主遣い、足遣い、左遣い3人の呼吸がピッタリと合う瞬間があることです。そこに太夫さんの語り、三味線の音が見事に揃うと、それはもう本当に気持ち良い…。そう思っただけのよう、頑張りますので、どうぞ、よろしくお願いいたします。

[▲このページのトップへ](#)

| [個人情報保護について \[PDF\]](#) |

Kissポート財団 

(公益財団法人 港区スポーツふれあい文化健康財団)

港区赤坂4-18-13 赤坂コミュニティふらざ

電話：03-5770-6837/Fax：03-5770-6884

お問い合わせ：fureai-info@kissport.or.jp

 Kissポート財団について



このホームページはKissポート財団の公式ホームページです。このホームページのすべての権利は当財団に帰属します。
当財団の許可なく複製、転載は出来ません。